

稲作情報(Vol.7)

令和7年7月25日
石巻地方米づくり推進本部
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

出穂期は7月28日頃の見込みです。斑点米カメムシ類注意報が発令されています。

7月中旬の気象経過

7月中旬の気温は、7/10から7/19までは平年を下回る涼しい日が続きました。その前後は最高気温が30℃を超える真夏日となりました。

日照時間は多くなりました。6/14の梅雨入り以降、まとまった雨はほとんどなく、7/18に梅雨明けとなりました。

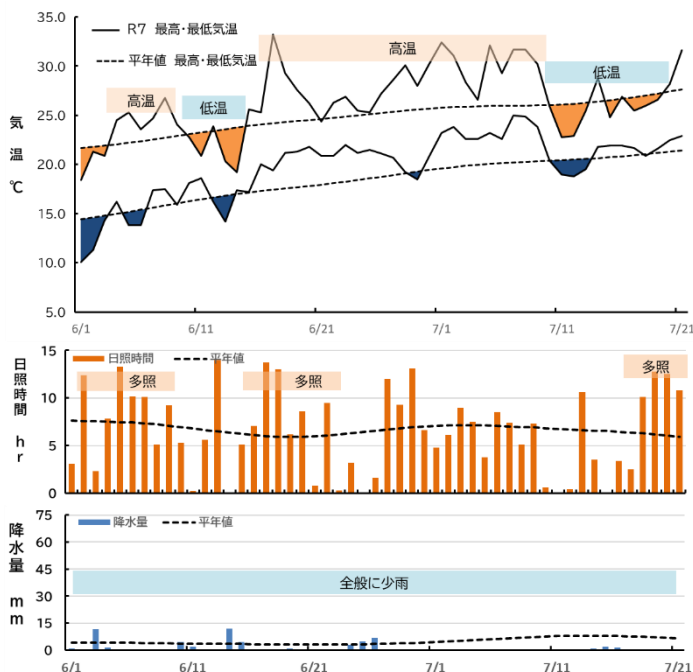


図1 田植後の気象経過（アメダス石巻）

※平年値はアメダス5カ年平均

水稻の生育状況

<移植栽培>

草丈は平年並、茎数は少なめ、葉色は淡いです。出穂は平年より6日早まる見込み

※生育調査日が平年より2日早いため、平年比は参考としてください。

- ◎ 草丈は、62.4～92.9cmで平年比90～103%で概ね平年並です。
- ◎ 茎数は、362～483本/m²で、前回調査より減少しているほ場がほとんどです。平年比は75～101%と平年より少ない傾向です。
- ◎ 葉数は、11.5～12.2枚で、平年並です。つきあかりのほ場は、昨年は葉齢が進んでいたため、前年比で1枚少なくなっています。
- ◎ 葉色は、どのほ場でも平年より淡く、1.5～12.4ポイント低くなっています。
- ◎ 幼穂長は5/7～5/9植えのほ場で、35～64mmとなっており、すでに減数分裂期を迎えています。5/16植えのササニシキほ場は13mmとなっています。5月上旬田植えのほ場は、7月末には出穂期を迎えるものと推定されます。

表1 移植栽培ほ場の調査結果（7月18日現在）

品種名	地区名	田植月日	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/m ²) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	幼穂形成始期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	備考
ひとめぼれ	石巻市広瀬	5/7	74.7 (100%)	410 (82%)	11.8 (-0.5)	31.7 (-2.5)	35 (-73)	7/5 (-0)	7/18 (+2)	○は参考値
	東松島市矢本	5/9	72.5 (97%)	483 (92%)	11.8 (-0.4)	30.8 (-5.1)	42 (-53)	7/5 (-1)	7/17 (+0)	
	ひとめぼれ平均		73.6 (99%)	447 (87%)	11.8 (0)	31 (-3.8)	38.4 (-63)	7/5 (-1)	7/18 (+2)	
ササニシキ	石巻市桃生	5/16	62.4 (90%)	411 (75%)	11.5 (-0.6)	31.5 (-1.5)	13 (-45.6)	7/9 (+1)	—	
	石巻市稲井	5/9	73.8 (103%)	466 (94%)	12.1 (+0.1)	30.7 (-4.8)	64 (-29)	7/4 (-3)	7/16 (-1)	
	ササニシキ平均		68.1 (97%)	438 (84%)	11.8 (-0.2)	31.1 (-3.2)	38.3 (-38)	7/6 (-2)		
つきあかり	石巻市広瀬	5/9	92.9 (101%)	362 (101%)	12.2 (-1.1)	34.3 (-12.4)	152 (-21.2)	7/1 (-2)	7/9 (-5)	○は前年比

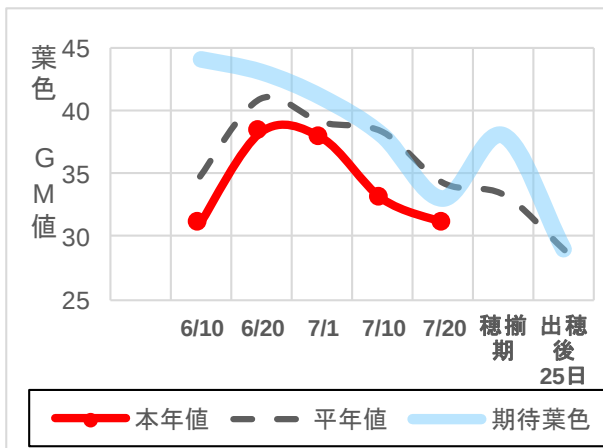
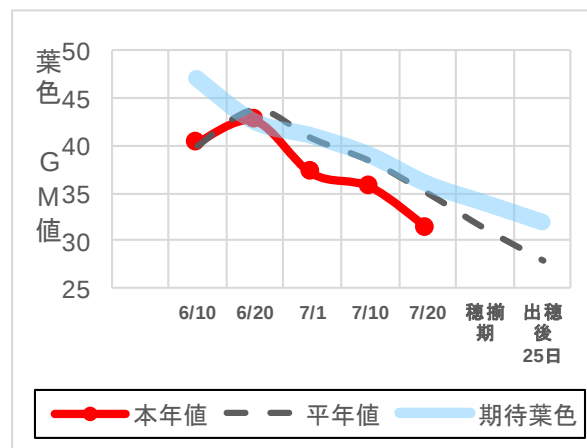
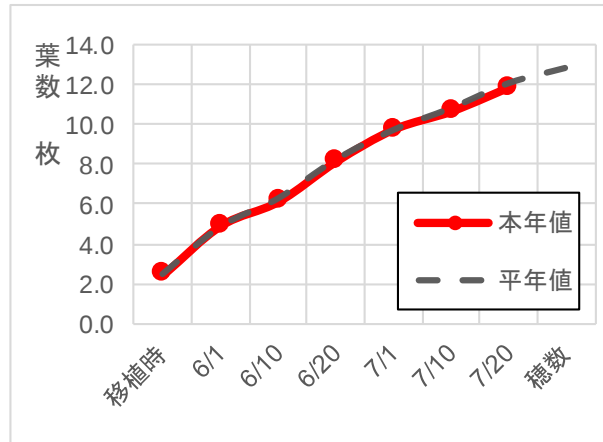
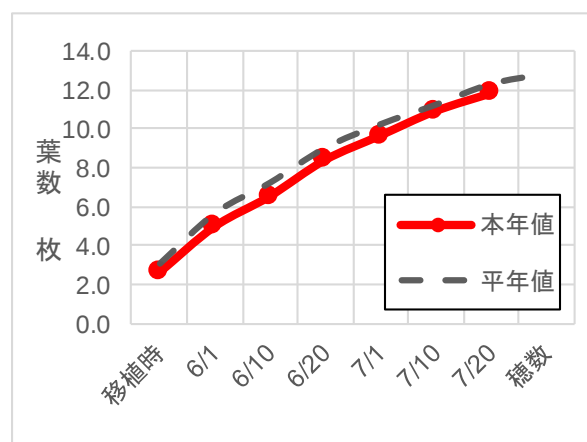
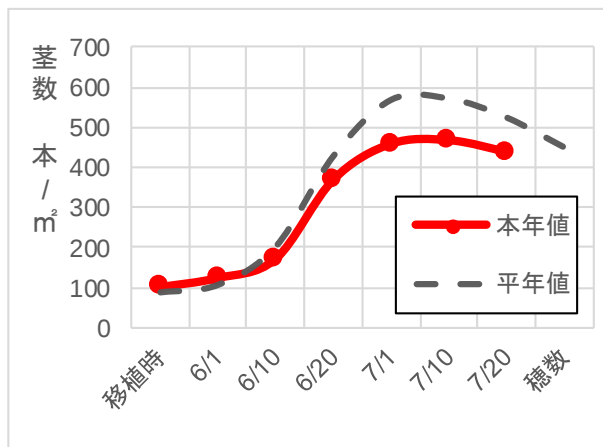
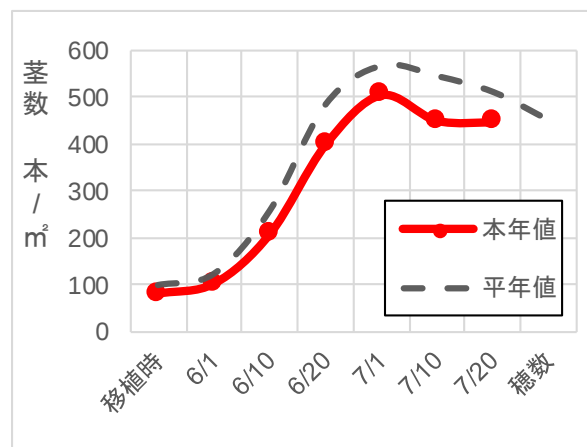
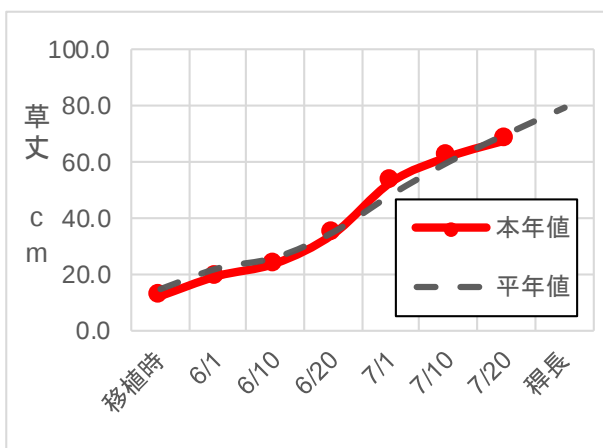
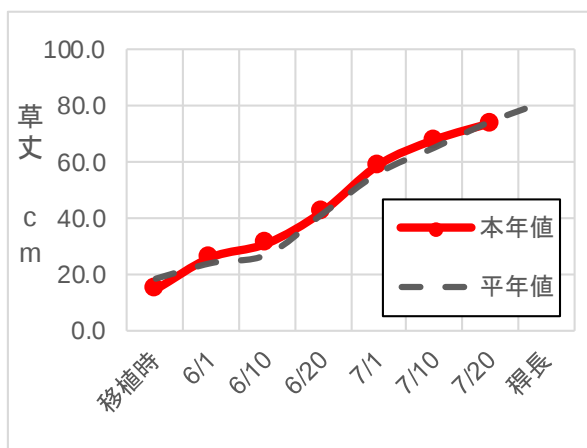


図2 ヒトめぼれの生育経過（2 ほ場平均）

図3 ササニシキの生育経過（2 ほ場平均）

＜乾田直播栽培＞

- ◎ 全てのほ場で、草丈・茎数とも平年を上回っています。ひとめぼれほ場で、葉数が前年より3枚少なく、葉色は3.8ポイント淡くなっています。
- ◎ 幼穂長は5.1～9.0mmで、伸びは緩やかですが、減数分裂期は7月25日前後で、出穂期は8月上旬となる見込みです。

表2 乾田直播ほ場の調査結果（7月18日現在）

品種名	地区名	播種日 (平年差)	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	幼穂形成始期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	備考
乾直ササニシキ	石巻市河南	4/7	76.2 (104%)	804 (135%)	11.3 (-0.2)	34.8 (+0.5)	9 (-4.2)	7/6 (-5)	—	
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	3/26	75.7 (101%)	574 (126%)	9.7 (-3.1)	37.8 (-3.8)	5.1 (-12.7)	7/12 (+4)	—	○は前年比

生育ステージ予測（7/22 現在）

出穂は平年より3日早まる

生育予測モデルによる生育ステージの予測では、5/9 田植えでは、出穂は 7/28 で平年（7/31）より3日早いと予想されます。

早生品種「五百川」では、7/15に出穂期を迎えています。

表3 生育予測モデルによる出穂期予測

	田植始期 (5%) 5/3	田植盛期 (50%) 5/9	田植終期 (95%) 5/22
幼穂形成期	7月3日	7月5日	7月15日
減数分裂期	7月16日	7月18日	7月27日
出穂期	出穂始期 (5%) 7月26日	出穂盛期 (50%) 7月28日	穂揃期 (95%) 8月6日
平年差	2日早い	3日早い	2日早い

7/22～8/3は2週間確率予測（50%）を利用
出穂期の平年値は前5か年平均値

今後の管理

1 水管理 ～出穂後30日頃までは飽水管理を～

- ◎ 出穂期前後の基本的な水管理は下図のとおりです。出穂期は水を多く必要とする時期なので、浅水管理とし、その後は飽水管理で水を切らさないようにしましょう。
- ◎ 出穂後5～15日の最低気温が23℃以上が連続するような高温の場合、白未熟粒が多発し、著しい品質低下を招く危険がありますので、「飽水管理」を行うことで日中及び夜間の地温上昇を抑えることが期待できます。

※飽水管理：足跡の水がなくなったらごく浅めに入水する（表土が十分湿る程度）。十分な用水の確保ができず「昼間湛水・夜間落水管理」等が難しい地域やほ場では、「飽水管理」が有効です。

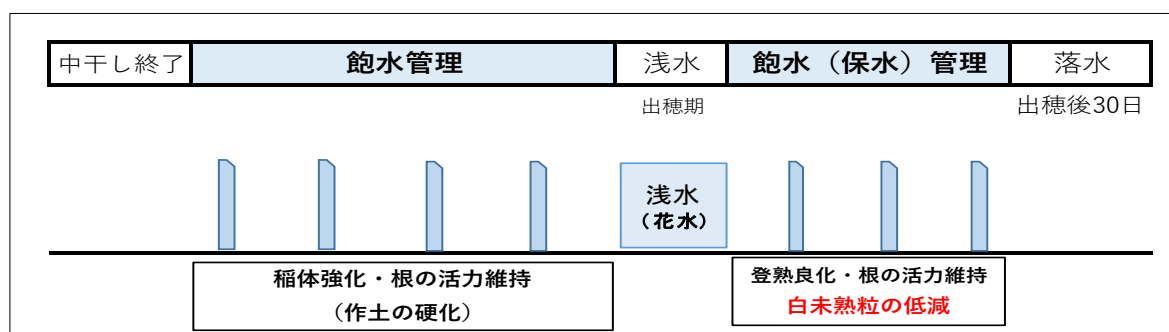


図4 高温時の飽水管理体系

- ◎ 低温が予想されるときは、幼穂形成期から出穂・開花までの期間は低温による障害を受けやすいので、天気予報に注意し、日平均気温 20℃以下又は最低気温 17℃以下の低温が続くと予想された時は、幼穂を保温するために深水管理としましょう。
- ◎ 早期落水は、登熟不良や品質低下の原因となるので、出穂後30日を目安に、収穫作業に支障のない範囲でできるだけ遅くしましょう。

2 追肥（詳細は稲作情報V○1.5及びV○1.6を参照してください）

- ◎ 白未熟粒による品質低下は登熟初期の高温と穂揃期の窒素栄養不足が原因となっています。葉色が淡く、まだ減数分裂期（出穂15～10日前）で追肥可能な場合は適切な追肥を行いましょう。

3 病虫害対策

カメムシ発生「やや早い」 適期防除を！

- ◎ 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ）の本田侵入始期は「**やや早い**」（第2世代成虫：8月第3半旬）、発生量は「**多い**」と予想され、「注意報第3号」が発令されました。適期防除できるよう留意しましょう。
- ◎ すでにアカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期を迎えているため、今後は水田周辺の畦畔の草刈りは原則行わないようにしましょう。
- ◎ 薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除が必要となります。イヌホタルイが除草できなかった場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させることができます。環境保全米等でやむを得ず1回防除となる場合には、穂揃後3～5日頃に散布してください。

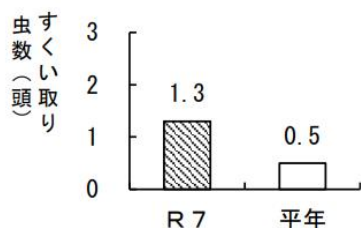


図5 本田におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)

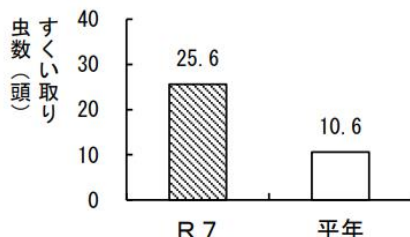


図6 周辺畦畔におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 アカスジカスミカメ

- ◎ 県内の葉いもち発生量は「平年並」、穂いもちの発生量は「平年並」で発生期は「やや早い」とされています（7月18日 宮城県病虫害防除所発表）。アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）では、7月中旬に、県内一部で感染好適条件が出現しており、管内でも6月に感染したとみられる葉いもちの発生が確認されています。水田の見回りをこまめに行い、葉いもちの早期発見に努めましょう。
- ◎ 紋枯病の発生量は「平年並」、稻こうじ病発生量は「平年並」と予報されています。

東北地方 1 か月予報

(7月19日から8月18日までの天候見通し)

令和7年7月17日仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

東北太平洋側では、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	10	80
【降水量】	東北地方	40	40	20
【日照時間】	東北地方	10	40	50

<気温の階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北太平洋側	10	10	80
2 週 目	東北太平洋側	10	30	60
3～4週目	東北太平洋側	10	30	60

高温に関する早期天候情報（東北地方）

令和7年7月22日14時30分

仙台管区气象台 発表

東北地方 7月28日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.7℃以上

東北地方では、最近1週間以上、気温のかなり高い状態が続いています。向こう2週間の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高い日が多い見込みです。気温が1年を通して最も高い時期ですので、熱中症の危険性が高い状態が続きます。引き続き、屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど熱中症対策を行い、健康管理に注意してください。また、農作物や家畜の管理等に注意してください。なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

宮城県農薬危害防止運動実施中！（6月1日から8月31日）

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底し、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施しています。

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です！！

予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



熱中症対策アイテム

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活躍



ファン付きウェア、ネッククーラー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際のリスクを回避したいときに活躍



ウェアラブル端末、応急セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたいときに活躍



ミストファン